

郡別	發生區域	年次															
		五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五					
板野郡	里浦村栗津																
同	同村恵比須																
同	北島村中村																
同	川内村		一九														
同	松坂村那東																
麻植郡	川島町川島																
同	同町桑村																
同	西尾村敷地																
同	同村西麻植																
那賀郡	寶田村下荒井																
海部郡	三岐田村志和岐																
三好郡	三細村漆川																
同	同村大和																
同	同村中西																

一、板野郡應神村字吉成ニ於ケル流行ハ大正六年ニ三一名ノ爆發的發生ヲナシ翌同七年ニハ三名同八年ニハ全ク發生

ナク同九年ニ二名後二箇年間發生ナク同十二年ニ九名同十三年ニ至リ八五名ノ大流行ヲナシ同十四年ニハ全ク發生ヲ見ス

二、板野郡藍園村字東中富ハ大正六年三名同十年二名同十二年一名ノ發生ニテ同十三年ニ至リ突然四八名ノ大流行ヲ來セリ

同村字奥野ハ大正六年一三名、同八年三名、同十年九名、同十二年五名ノ發生アリテ同十三年ニハ一九名ノ多數發生アリシモ同十四年ニハ四名ノ發生アリシノミ

三、板野郡住吉村字矢上ニ於テハ大正六年二名、同七年二名以降三箇年間ハ全ク發生ヲ觀ス同十一年三名同十二年二名同十三年ニ至リ實ニ九二名ノ大流行ヲ來セリ

四、板野郡里浦村栗津ニ於テハ大正十一年ニ突如トシテ七六名ノ發生アリ其前後ニ於テハ全ク發生ナシ同村恵比須ニ於テハ大正十一年ニ二三名翌同十二年ニ發生ナク同十三年ニ六名ノ發生アリ

五、板野郡北島村中村ニ於テハ大正十年迄ニ一名ノ發生モナク同十一年ニ至リテ二名、同十三年一〇名、同十四年ニ至リ三一名ノ流行ヲ來セリ

六、板野郡松坂村字那東ニ於テハ大正九年ニ二名ノ發生ヲ見タルノミニシテ前後七箇年全ク發生ヲ見ス大正十三年ニ一名發生シ翌同十四年ニハ五四名ノ爆發的流行ヲ來セリ

七、麻植郡川島町字川島ニ於テハ大正六年三名、同七年四名同九年一名、同十年同十一年各二名ニシテ同十二年ニ至リ六八名ノ多數發生ヲ見同十三年同十四年ニハ各一名ノ發生アリシノミ

八、川島町字桑村ニ於テハ大正六年ニ一七名ノ發生ヲ見翌同七年ニ一名、同八年ニ三名、同九年ニ一名、同十一年ニ一名、同十二年ニハ三八名ノ發生アリテ以來發生ヲ見ス

九、西尾村字西麻植ニ於テハ大正六年六名、同七年四名、同八年一名、同十年三名、同十一年二名ノ後同十二年ニ至リ五一名ノ發生アリ同十三年ニ四名、同十四年ニハ僅ニ二名アルノミ

一〇、西尾村字敷地ニ於テハ大正六年一名、同七年七名、後同九年同十年同十一年ハ各一名同十二年ニ一六名同十三年ニ一名發生シタリ

一一、那賀郡寶田村ノ内立善寺、下荒井ハ區名ヲ異ニスレトモ發生地人家ハ兩者接續シ地域上區別ナケレハ區域ト見做ス此處ニ於テハ大正六年六名同七年ニ二六名ヲ出シ後大正九年四名、同十年三名、同十一年五名ノ發生ヲ見ル

一二、海部郡三岐田村字志和岐ニ於テハ大正九年突然三一名ヲ發生シタルノミニテ前後十年間一名ノ發生モナシ

一三、三好郡三繩村字漆川ニ於テハ大正五年ニ一名ノ發生アリ爾後六年間發生ナカリシニ大正十二年ニハ三六名、同十三年ニハ二名、同十四年ニ一名ノ發生ヲ見ル

一四、同村字大利ハ大正五年ニ五名、同六年二名、同七年同八年各一名、同九年同十年ナク同十一年三名、同十二年ニハ二三名ノ發生アリ同十三年及同十四年ニハ各四名ノ發生アリ

一五、同村中西ニ於テハ大正五年ニ四名、同六年二名、同七年一名ヲ見タル後同八年同九年同十年ノ三箇年ハ發生ナクシテ突如トシテ同十一年ニ二六名ノ發生ヲ見ル同十二年二名、同十三年三名、同十四年一名ノ發生アリ

以上ノ流行狀況ヲ觀察スルニ一區域ノ流行ハ年々反覆スルモノニアラスシテ流行區域移動スルハ明カナリ

之カ原因ニ就テ考察スルニ流行終熄後ニ至リ精密ナル調査ヲ行フニ流行區域ニ於テハ輕症患者甚タ多ク自他共ニ赤痢ナルヲ感知スルコトナクシテ經過セル事例尠カラス

流行時施行セル消毒ノ效果ヲ翌年ニ存續スルモノトハ認メ難ク一面村民ハ前年流行セル慘害ノ覆轍ヲ惧レルト雖トモ衛生思想ハ短日月ニ之カ發達ハ期シ難シ

而カモ流行ノ翌年ニ於ケル發生ノ有無ニ關シ大正十二年ニ流行セル麻植郡川島町及同郡西尾村字西麻植ニ於テ翌十三年ニ又大正十三年ニ流行セル板野郡應神村字吉成及同郡住吉村字矢上ニ於テ翌十四年ニ各流行季節前ニ於テ何等豫防施設ヲ行ハス經過ヲ觀察セルニ數字以外ノ發生ヲ見ス

第二節 健康者血清ノ赤痢菌ニ對スル凝集作用

前述ノ如ク赤痢流行區域ハ年々移動セルモノナレハ之カ原因ニ就テハ前年流行地ニ於ケル住民ノ多數ハ赤痢經過セルモノニアラサルヤヲ疑ヒ免疫ノ有無ニ對スル調査トシテ赤痢未經過者及豫防接種ヲ受ケサルモノハ血清並ニワ氏反應検査血清ノ一部ヲ利用シ凝集反應ヲ施行セリ然レトモ之カ必スシモ正鵠ヲ得タルモノトハ思惟セサルモ免疫力ニ對スル推知ノ一資料トシ左表ノ検査ヲ施行セリ

血清	赤痢菌		梅毒		肺炎		結核	
	凝集	沈澱	凝集	沈澱	凝集	沈澱	凝集	沈澱
200X	++	++	++	++	++	++	++	++
400X	++	++	++	++	++	++	++	++
800X	++	++	++	++	++	++	++	++
1600X	++	++	++	++	++	++	++	++
3200X	++	++	++	++	++	++	++	++
6400X	++	++	++	++	++	++	++	++

血	清	馬	○	○	○	○	○	○	○	○			
擬集川南株	志賀南	胸込A南	胸込BIII南	フシネキル	志賀南	胸込A南	胸込BIII南	フシネキル	志賀南	胸込A南	胸込BIII南	フシネキル	
		200X	++	++	++	++	++	++	++	++	++	++	++
		800X	--	++	--	--	--	--	--	--	--	--	--
績	3200X	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	
		6400X	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

血	清	妹	○	○	○	X	○	○	○				
擬集川南株	志賀南	胸込A南	胸込BIII南	フシネキル	志賀南	胸込A南	胸込BIII南	フシネキル	志賀南	胸込A南	胸込BIII南	フシネキル	
		200X	++	--	++	++	++	++	++	++	++	++	++
		800X	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
績	3200X	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	
		6400X	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

血	清	松	○	○	○	○	○	X	○				
擬集川南株	志賀南	胸込A南	胸込BIII南	フシネキル	志賀南	胸込A南	胸込BIII南	フシネキル	志賀南	胸込A南	胸込BIII南	フシネキル	
		200X	--	--	++	++	++	++	++	++	++	++	++
		800X	--	--	++	--	--	--	--	--	--	--	--
績	3200X	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	
		6400X	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	

血	清	賀	○	M	○	坂	○	馬	○	○	岡	○	
擬集川南株	志賀南	胸込A南	胸込BIII南	フシネキル	志賀南	胸込A南	胸込BIII南	フシネキル	志賀南	胸込A南	胸込BIII南	フシネキル	
		200X	++	++	++	++	++	++	++	++	++	++	++
		800X	--	--	++	--	--	++	--	--	--	--	--
績	3200X	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	
		6400X	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

血	清	玉	○	早	○	大	○	水	○	馬	○
凝集用菌株	株	志賀菌	胸込A菌	胸込A菌	胸込A菌	胸込A菌	胸込A菌	胸込A菌	胸込A菌	胸込A菌	胸込A菌
			胸込BIII菌	胸込BIII菌	胸込BIII菌	胸込BIII菌	胸込BIII菌	胸込BIII菌	胸込BIII菌	胸込BIII菌	胸込BIII菌
皮	績	200X	+	+	+	+	+	+	+	+	+
		40X	+	+	+	+	+	+	+	+	+
績	績	800X	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		160X	-	-	-	-	-	-	-	-	-
績	績	3200X	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		640X	-	-	-	-	-	-	-	-	-

血	清	住	○	多	○	寺	○	上	○	木	○
凝集用菌株	株	志賀菌	胸込A菌	胸込A菌	胸込A菌	胸込A菌	胸込A菌	胸込A菌	胸込A菌	胸込A菌	胸込A菌
			胸込BIII菌	胸込BIII菌	胸込BIII菌	胸込BIII菌	胸込BIII菌	胸込BIII菌	胸込BIII菌	胸込BIII菌	胸込BIII菌
皮	績	200X	+	+	+	+	+	+	+	+	+
		40X	+	+	+	+	+	+	+	+	+
績	績	800X	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		160X	-	-	-	-	-	-	-	-	-
績	績	3200X	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		640X	-	-	-	-	-	-	-	-	-

血	清	吉	○	三	○	山	○	松	○	前	○
凝集用菌株	株	志賀菌	胸込A菌	胸込A菌	胸込A菌	胸込A菌	胸込A菌	胸込A菌	胸込A菌	胸込A菌	胸込A菌
			胸込BIII菌	胸込BIII菌	胸込BIII菌	胸込BIII菌	胸込BIII菌	胸込BIII菌	胸込BIII菌	胸込BIII菌	胸込BIII菌
皮	績	200X	+	+	+	+	+	+	+	+	+
		40X	+	+	+	+	+	+	+	+	+
績	績	800X	+	+	+	+	+	+	+	+	+
		160X	+	+	+	+	+	+	+	+	+
績	績	3200X	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		640X	-	-	-	-	-	-	-	-	-

血	清	町	○	坂	○	馬	○	福	○	永	○
凝集用菌株	株	志賀菌	胸込A菌	胸込A菌	胸込A菌	胸込A菌	胸込A菌	胸込A菌	胸込A菌	胸込A菌	胸込A菌
			胸込BIII菌	胸込BIII菌	胸込BIII菌	胸込BIII菌	胸込BIII菌	胸込BIII菌	胸込BIII菌	胸込BIII菌	胸込BIII菌
皮	績	200X	+	+	+	+	+	+	+	+	+
		40X	+	+	+	+	+	+	+	+	+
績	績	800X	+	+	+	+	+	+	+	+	+
		160X	+	+	+	+	+	+	+	+	+
績	績	3200X	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		640X	-	-	-	-	-	-	-	-	-

血	清	中	内	上	赤	紫
成	200x	++	++	++	++	++
	400x	++	++	++	++	++
	800x	++	++	++	++	++
	1000x	++	++	++	++	++
績	3200x	--	++	++	--	++
	6400x	--	++	++	--	++
	12800x	--	++	++	--	++
	25600x	--	++	++	--	++

血	清	土	濱	泰	四	竹
成	200x	++	--	++	--	--
	400x	++	--	++	--	--
	800x	++	--	++	--	--
	1600x	++	--	++	--	--
績	3200x	--	--	++	--	--
	6400x	--	--	++	--	--

血	清	賀	豊	芝	齊	宅
成	200x	--	++	--	--	++
	400x	--	++	--	--	++
	800x	--	++	--	--	++
	1600x	--	++	--	--	++
績	3200x	--	--	--	--	++
	6400x	--	--	--	--	++

血	清	賀	佐	村	吉	馬
成	200x	++	--	++	++	++
	400x	++	--	++	++	++
	800x	++	--	++	++	++
	1600x	++	--	++	++	++
績	3200x	--	--	++	--	--
	6400x	--	--	++	--	--

血	清	赤	○	笠	○	西	○	多	○	巾	○
成	200×	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	400×	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
績	800×	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	1600×	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
3200×		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
6400×		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+

血	清	勝	○	若	○	忠	○	辻	○	石	○
成	200×	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	400×	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
績	800×	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	1600×	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
3200×		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
6400×		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+

血	清	長	○	加	○	福	○	久	○	鹿	○
成	200×	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	400×	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
績	800×	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	1600×	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
3200×		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
6400×		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+

血	清	赤	○	相	○	加	○	瀧	○	長	○
成	200×	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	400×	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
績	800×	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	1600×	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
3200×		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
6400×		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+

血	清	馬	○	馬	○	赤	○	兼	○	平	○
成	200×	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	40×	-	+	-	-	-	-	-	+	-	+
	800×	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-
績	160×	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-
	3200×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	640×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

血	清	馬	○	馬	○	赤	○	兼	○	岡	○
成	240×	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	800×	-	+	-	-	-	-	-	+	-	+
	160×	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-
績	3200×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	640×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

血	清	原	○	馬	○	雜	○	非	○	吉	○
成	240×	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	800×	-	+	-	-	-	-	-	+	-	+
	160×	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-
績	3200×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	640×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

血	清	非	○	和	○	田	○	氷	○
成	200×	+	+	+	+	+	+	+	+
	40×	-	+	-	-	-	-	+	-
	800×	+	-	-	-	-	-	+	-
績	160×	-	-	-	-	-	-	+	-
	3200×	-	-	-	-	-	-	+	-
	640×	-	-	-	-	-	-	+	-



前表ノ成績ヲ觀ルニ一〇四例中志賀型菌ノミニ凝集セルモノ六例志賀型菌及異型菌共ニ四〇倍以上ニ凝集セルモノ二八例駒込A型菌ニ對シ三二〇倍以上ニ凝集セルモノ三例駒込B III型菌ニ對シ三二〇倍以上ニ凝集セルモノ一七例眞性フンキンネル型菌ニ對シ三二〇倍以上ニ凝集セルモノ四例アリ

菌株ハ駒込病院ヨリ分與ヲ受ケタルモノニシテ被凝性確實ニ對シテハ隨時之ヲ檢定シ其ノ一・〇%ヲオルマリン加食鹽水ニテ殺菌セル赤痢菌液ナリ濃度ハ一cc.ニ一mgノ割合トシ作用時間ハ三十七度ノ孵室内ニ二時間收メ後室温中ニ二十四時間放置シ後其ノ成績ヲ判定ス

志賀博士ハ赤痢患者恢復期ニ於ケル血清ハ二〇倍乃至五〇倍稀釋ニテ赤痢菌ヲ凝集シ稀ニ百倍乃至數百倍稀釋ニテ凝集ス之ニ反シテ健康血清及他ノ患者ノ血清ハ二〇倍以上ノ稀釋ニテ凝集スルコトナク該凝集作用ハ特異性ナリト本成績ニ依レハ陽性ト見做スヘキモノ志賀型九例駒込A型菌ニ三例駒込B III型菌ニ一七例合計二九例ニシテ約三十六%ノ陽性ト見做ス可キモノアルヲ以テ流行經過後ニ於テハ自他共ニ感知セサル間ニ赤痢ヲ經過シ防禦力ヲ獲得セルモノ相當アリテ流行ノ再發ヲ免ルルモノトナランカ

### 第三節 最近十箇年間ニ於ケル連續的發生場所

左表ハ最近十箇年間ニ於ケル狀況ナルニ發生患者數ハ少數ナルモ年々相次テ發生シ流行區域ノ移動トハ認メ難キモ其ノ發生場所何レモ山村ニシテ人家點在シ地域廣汎ナリ依テ其ノ發生ヲ仔細ニ觀察スルニ該地域内ニ於テ依然トシテ移動的發生ヲナスモノナリ

年次別流行區域 (第二表)

郡別	發生區域	大正五年	同六年	同七年	同八年	同九年	同十年	同十一年	同十二年	同十三年	同十四年
勝浦郡	棚野村三溪	六	九	七	三一	一一	五	四	九	一〇	六
同	坂本	七	三	六	一七	三	四	五	三	一	二
同	福原村福原	二	一	一〇	三	二	三	二	六	三	六
同	生貨	二	二	一八	一	一	一〇	一	一	二二	一五
同	佐馬地村白地	一	八	一	六	三	一	五六	二八	七	二
同	馬地	二	一	一	一	一	一四	二	一四	四	一

## 第一章 赤痢ニ對スル蠅ノ疫學的考察

消化器傳染病ノ傳染媒介者トシテ蠅ノ疫學的ニ最モ緊密ナル關係ニアルハ彼ノ習性、病毒傳搬ニ最モ好適ナルハ言ヲ俟サル所ナリ是レカ文献甚タ多シ今其一ニヲ概述スレハ

ヒルレンベルグハリタウエンノ赤痢流行ヲ記述シ其流行原因ヲ蠅禍ナリトセリ

マツテスハ排泄物排除所置ノ不完全ナレハナル程蠅ノ發生ヲ盛ナラシメ以テ赤痢ノ蔓延ニ便ナラシメ毎年十月ノ候ニ至リ蠅ノ消滅スルト共ニ赤痢ハ終熄スト云ヘリ(醫事新聞千百十九號矢ヶ崎學士述)

赤痢流行時ニ蚊帳中ニ於ケル食事ヲ獎勵スルニ及ンテ忽然トシテ赤痢ノ減少ヲ來セリト(微生物學會雜誌大野博士)



便所ニ於ケル蠅ノ發生ヲ徹底的ニ撲滅スルコトニヨリテ赤痢豫防ニ大效アリシト(大日本私立衛生會雜誌第二四三號鈴木恒次氏赤痢全滅策)

乾玄治氏(一九〇一)ハ早クヨリ赤痢傳播ノ徑路ヲ蠅ニ皈シ原親雄氏(一九二二)ハ明治三十九年神奈川縣高座郡ノ赤痢流行ニ際シテ防蠅法カ其撲滅ニ效アリシヲ記シ更ニ釜山ニテ同病流行ノ際一、看護婦ニ罹患セシコト二、患者ノ病床ニ近ク置キシ培養基上ニ赤痢菌ヲ發生セシコト三、重症患者室及炊事場ノ蠅各一例ニ於テ其腸内ニ於テ菌ヲ見出シタルコト四、更ニ他ノ流行地ニ於テ其他ノ蠅四きん蠅ニヨリ各赤痢菌ヲ見出シタル事ニヨリテ其赤痢流行カ蠅ニ關係アルヘキヲ説ケリ

蠅ノ發生時期ニ就テ小林博士ノ調査ニヨレハ蠅ノ發生ハ五月ニ初マリ六月ニ至リ急ニ増殖シ七八月ノ兩月ハ最も多ク九月末ニ至リ減シ十一月ニ至リテハ多クノ場合ニ於テ産卵ヲ停止スルモノノ如シ

飯村防疫官ノ静岡縣ニ於テ調査セラレタル蠅ノ消長並其種類

月別	種別	家蠅	黒蠅	姫家蠅	大家蠅	銀蠅	肉蠅	計
四月十八日ヨリ		二、〇四〇	二					二、〇四二
五月		七、六五三	三					七、六五六
六月		三、四四九	一九四	一五	四七			三、七二五
七月		九五七	一五九	三五	八六	六五	六〇九	一、九一四
八月		三一六	四	一		三六	四九六	八五三
計		一四、五〇八	三六五	五二	一三六	一一八	一、二六六	一六、三四五
蠅種百分比		八八・四〇	二・二三	〇・三三	〇・八三	〇・七二	七・一二	一〇〇・〇〇
雌雄比		五五・六三	五七・八〇	六七・三〇	五五・七八	五六・七八	五二・〇六	
別百分比		四四・三七	四二・二〇	三二・七〇	四四・一一	四三・二二	四七・九四	

府縣別	月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	備考
京都府														
神奈川縣														
長崎縣														終熄セス
新潟縣														
埼玉縣														

第一節 蠅ノ消長ト赤痢流行關係

今試ニ各府縣ニ於ケル蠅ノ消長ト赤痢流行關係ヲ見ルニ左表ノ如ク蠅ノ活動最も旺盛ナル時期ニ於テ本病ノ蔓延モ亦甚シキモノノ如シ

蠅ノ發生並ニ終熄ノ時期

111



府縣別	月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	備考
熊本縣														不明
宮崎縣														終熄セス
沖繩縣														終熄セス
北海道														
栃木縣														

左記府縣ヲ除ク  
 東京府、大阪府、兵庫縣、愛知縣、靜岡縣、山梨縣、秋田縣、石川縣、岡山縣、山口縣、福岡縣、大分縣、熊本縣、鹿兒島縣  
 ノ各府縣報告未済

各府縣ニ於ケル既往五箇年平均赤痢患者發生月別表 (自大正十九年 至大正十三年)

府縣名	月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
京都府		二五・一	一〇・〇	二五・二	四四・四	七二・六	三三・八	二六・六	二五・四	二八・四	二五・二	五九・八	三六・六	四四〇・三
神奈川縣		二・〇	一・〇	三・三	五・〇	一〇・六	三三・四	六七・〇	七二・二	五三・〇	四九・六	三三・八	七・〇	三三四・八
長崎縣		五・四	三・六	三・八	四・四	三・三	三・三	七六・〇	一五・四	一四〇・三	八〇・四	五・八	二〇・八	六三三・三
新潟縣		〇・二	一・八	一・三	四・八	四・〇	七・四	三三・六	五一・六	一六・六	七・三	一・六	〇・八	二〇〇・八

府縣名	月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
埼玉縣		一・四	三・四	五・八	七・〇	一三・四	四〇・三	二七・六	二七・〇	六六・六	二九・六	二二・六	三・四	四三八・〇
群馬縣		〇・五	一・〇	一・四	一・八	三・七	一五・七	三三・四	三九・〇	二八・八	一一・四	二・四	一・六	一四六・六
千葉縣		三・八	二・四	一・四	四・八	一七・〇	二九・四	一一・〇	一五・四	八二・〇	四三・六	一八・二	四・六	四六二・八
茨城縣		〇・三	一・八	四・三	二・四	六・二	二五・八	七・六	三六・三	一五・六	一五・六	五・〇	三・〇	二四八・八
奈良縣			〇・四		〇・三	〇・四	〇・六	四・六	一四・二	八・三	二・六	一・八		三三・〇
三重縣					〇・六	一・六	五・六	三・四	四九・三	一八・二	六・二	一・四	〇・三	一一五・四
愛知縣		三・四	二・六	四・〇	五・六	二四・三	五三・四	一一・六	九四・八	六九・〇	四八・〇	二・四	六・八	四四六・八
靜岡縣		五・三	四・八	四・三	九・四	二八・六	八九・八	一九七・六	一九六・八	一三四・六	一〇六・二	五二・六	一七・〇	八四九・八
山梨縣		〇・四	一・四	一・三	三・〇	四・八	二四・四	四三・四	九四・四	六三・二	三三・〇	一一・二	六・〇	二八四・四
滋賀縣		〇・三	〇・六	〇・三		〇・八	一・四	一六・八	一三・〇	七・四	四・四	一・八	〇・八	四七・五
岐阜縣		一・四	二・八	〇・八	三・三	六・六	三三・〇	七六・八	五八・四	四四・八	二六・二	三三・〇	四・四	二六一・四
長野縣		〇・三			〇・三	〇・八	〇・六	六・四	一七・二	一八・四	六・八	一・八		五二・四
富山縣		〇・四			〇・八	二・〇	二・六	一〇・六	四八・六	七五・〇	三〇・〇	八・〇	〇・八	一八一・五
福井縣		〇・四			一・〇	一・四	七・〇	一七・八	六九・四	五三・二	二六・四	八・三	一・三	一八五・六
岩手縣		〇・六	〇・六	〇・六	一・〇	二・六	三・八	一七・四	二〇・八	二八・四・八	一九八・〇	四〇・四	一・三	六八四・四
青森縣		一・三	一・四	〇・六	〇・八	三・四	六・三	一五・四	一〇四・二	三三一・〇	二四・八	六・四	六・四	七九〇・五
山形縣				一・〇	〇・四	〇・八	〇・三	二・二	四・四	一〇・六	一・四	〇・三		二二・二

府縣別	月別												
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
宮崎縣	0.6	0.3	1.0	2.0	4.6	11.6	33.6	24.6	16.6	15.4	5.8	2.4	117.4
熊本縣	8.8	1.4	2.2	8.4	30.0	114.1	206.1	334.8	324.0	159.6	99.8	36.6	1,336.0
佐賀縣	0.8	—	0.6	0.4	0.4	9.0	45.2	59.6	34.0	8.0	4.6	—	162.6
大分縣	4.4	1.8	0.3	0.6	5.4	34.0	77.2	160.6	218.6	55.8	39.4	8.0	506.0
福岡縣	3.3	7.4	6.3	6.6	11.8	46.0	149.8	262.2	161.2	84.6	37.8	3.0	784.8
高知縣	1.4	1.0	2.0	4.6	6.0	14.6	49.4	37.4	18.0	5.8	3.0	3.0	188.6
愛媛縣	1.0	0.4	2.4	3.6	5.6	10.2	31.0	68.6	39.4	27.8	14.6	3.0	207.6
徳島縣	0.8	1.4	0.8	2.6	2.8	7.6	10.6	26.0	36.2	83.6	3.0	3.6	110.0
和歌山縣	0.3	0.3	0.4	2.3	1.3	10.6	13.8	18.3	9.4	10.7	3.6	0.4	69.9
廣島縣	6.4	5.4	7.0	4.8	11.2	58.2	133.2	226.4	226.4	148.2	54.4	8.2	848.7
島根縣	0.8	1.4	0.4	1.2	2.8	6.8	19.2	78.8	74.4	44.6	14.2	5.2	249.8
鳥取縣	0.3	0.6	—	0.3	—	0.4	2.0	6.2	6.8	2.0	1.6	0.3	20.2
富山縣	—	—	—	—	—	0.4	0.4	1.0	3.8	1.0	—	—	6.6
石川縣	—	0.4	—	—	—	0.8	5.6	8.0	25.0	18.6	0.4	0.8	62.6
福井縣	—	—	—	—	—	0.4	2.4	3.8	3.4	6.4	0.4	—	17.0
合計	28.3	21.0	28.8	46.0	102.3	282.3	538.8	835.8	796.8	483.9	177.4	330.2	3,324.8

府縣別	月別												
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
沖繩縣	—	—	—	—	0.4	—	0.4	0.6	5.8	0.8	—	—	8.0
北海道	0.3	0.3	0.3	5.8	1.0	1.8	2.6	8.6	9.2	5.4	4.2	—	39.2
栃木縣	0.4	0.6	1.3	0.8	1.3	11.0	33.0	33.4	25.8	15.8	2.8	1.2	117.2
合計	0.7	1.0	1.6	6.6	1.7	13.8	46.8	78.2	60.4	32.0	10.4	2.4	164.6

左記府縣ヲ除ク  
東京府、大阪府、兵庫縣、秋田縣、岡山縣、山口縣、香川縣、鹿児島縣

第二節 驅蠅施設ト患者發生狀況

流行場所ハ板野郡松坂村大字那東戸數一三六戸人口八一〇人質朴ナル農村ニシテ村民ノ大部分ハ耕農並養蠶ヲ業トス  
一、流行ノ發端

大正十四年八月十三日ヨリ四十五日ノ間ニ續發的ニ九名ノ患者ヲ發見スルニ至リ直ニ吏員ヲ派遣シ發生ノ原因竝傳染ノ徑路等ニ就キ調査セシメシニ同地ハ人家櫛比シ時恰モ養蠶ノ上簇期ニ向ヒ屋内蠶兒ヲ以テ充滿シ屋外又蠶糞廢桑ヲ以テ埋メ一步モ入ルルニ難カラシメ繁務ニ追ハルル爲主婦ハ家族ノ健康状態ヲ顧慮スルノ暇ナキヲ以テ一度病毒侵入セハ相當慘害ヲ蒙ルコトヲ豫想スルニ十分ノ狀況ニアリ

二、傳染徑路ノ檢索

先ツ傳染徑路調査ノ目的ヲ以テ過去二箇月ノ死亡診斷書ノ寫ヲ査閲スルニ左ノ二名腦膜炎ノ病名ノ下ニ死亡スルヲ見タリ

發病月日	死亡月日	住	所	氏名	年齢
七、二五	八、四	松坂村大字那東字大道	近藤	和	〇
八、九	八、九	松坂村大字那東	松下	〇	四

之ヲ主治醫ニ糺スニ小兒赤痢ノ症狀ニテ死亡セリ依テ本部落ノ赤痢流行ハ已ニ本年七月下旬ニ發生セルコトヲ察知シ直ニ嚴重調査スルニ同村田尾〇郎〇衛門一家六名ハ赤痢様疾患ヲ經過セルヲ知レリ茲ニ於テ之カ病源ヲ精査スルニ本人ハ罹病前住吉村ナル親族赤痢患者村上〇方ニ至リ同家ニ於テ飲食ヲナシ歸宅後四、五日ニシテ發病シ一家六名ニ感染セシモ遂ニ之ヲ隱蔽シ終レル事實ヲ知レリ

三、隱蔽患者ノ汚物ノ處置

汚物ノ所置ニ付搜索スルニ便池ハ石灰消毒ヲ行ヒタル形跡アルモ近隣住民ノ風評ニヨレハ患者ニ接近セル池ニ於テ夜陰ニ乘シ屢々汚染物ヲ洗濯セル事實ヲ認メタルコト聞知シ同池内ヲ探索スルニ布片ヲ發見シ其ノ出所ヲ確ムルニ田尾〇郎〇衛門ノ所有物ナルコト判明セリ同池ハ三坪餘ノモノニシテ水ノ交流少ク病源ニ汚染セルモノト思考シ其ノ使用狀況ヲ見ルニ同池水ハ常ニ多數兒童ノ游泳シ居ルコトアルヲ知り直ニ之等ニツキ調査スルニ游泳セシモノニシテ罹患セルモノ左ノ如シ

發病月日	診斷月日	住	所	氏名	年齢
八、一三	八、一五	松坂村那東	黒	政	〇
八、一三	八、一五	同	玉	照	〇

八、一三	八、一五	同	豊	〇	仲	〇	一三
八、一六	八、一八	同	近	〇	俊	〇	一〇
八、一八	八、一九	同	玉	〇	幾	〇	五
八、二一	八、二二	同	豊	〇	光	〇	六
八、二六	八、二七	同	高	〇	菊	〇	七

四、驅蠅施設ト患者發生ノ狀況

本流行ノ病源散蔓ノ原因ハ池水ニヨルモノナリト雖其ノ後ノ傳播狀況ヲ實地ニツキ視察スルニ蠅ハ跳梁飛躍シ恰モ病源運搬ノ役目ヲナスカ如キ狀況ナルヲ以テ徹底的防蠅施設ヲ急務ナリト思考シ左記ノ方法ヲ施行セリ  
 蠅ノ驅除方法トシテ其ノ發生箇所ヲ撰擇シ週一回石油乳劑ヲ撒布セシメタルニ其所要量十六石ニ達セリ  
 蠅(成蠅)ノ驅除方法トシテハ一部落一三六戸ヲ豫防區ト見做シ毎戸ニ對シ蠅取紙ヲ配付シ極力之カ驅除ニ努メタリ  
 本施設ニ對シテハ村民ニ蠅ノ驅除ノ必要ナル旨ヲ諭シ一面防疫監吏警察官等ヲ以テ之カ實行方ヲ督勵シ捕蠅數ヲ毎日計算シ以テ蠅ノ減少ト患者發生率トノ關係ニ就テ精密ニ觀察セリ

驅蠅施設前ニ於ケル患者發生數

發見月日	發見者	患者數
八、一四	男	一
	女	一
	計	二

發見月日	發見患者		計數
	男	女	
八、一五	三	三	三
八、一六	一	一	二
八、一七	三	一	四
八、一九	一	二	三
八、二〇	一	一	二
八、二二	二	一	三
八、二四	一	一	二
八、二五	一	一	二
八、二七	一	三	四
八、二八	二	六	八
八、二九	二	三	五
八、三〇	一	一	二

驅蠅施設前ノ日數十六日間

發生患者數三十七名

驅蠅施設後ニ於ケル捕蠅數並ニ患者發生率

蠅取紙配付月日	配付戸數	一枚平均蠅附着數	捕蠅數	發生患者數
八、三一	一三六	八一九	一一一、三八四	一
九、一	一三六	五四五	七四、一二〇	二
九、二	一三六	四一二	五六、〇三二	一
九、三	一三六	三二二	四二、四三二	一
九、四	一三六	一四〇	一九、〇四〇	三
九、五	一三六	一八〇	二四、四八〇	二
九、六	一三六	二九〇	二四、四八〇	一
九、七	一三六	一五〇	三九、四四〇	三
九、八	一三六	一五二	二〇、六七二	三
九、九	一三六	一四二	一九、三一二	三
九、一〇	一三六	一七九	二四、三四四	一
九、一一	一三六	八〇	一〇、八八〇	一
九、一二	一三六	八三	一一、二八八	一
九、一三	一三六	七六	一〇、三三六	一
合計	一三六	三五、六〇〇	四、八四一、六〇〇	一八

驅蠅施設後日數十四日間

發生患者數十八名



前表ノ成績ニ徴スレハ驅蠅施設後十日間ハ殆ント毎日患者ノ發生ヲ見タルモ八月九日ノ三名發生ヲ最後トシテ以後  
之カ發生ナク其ノ後ノ經過ヲ觀察スルニ全ク防遏シ得タルモノト思考ス

五、患者早期發見方法其ノ成績

患者ヲ早期ニ發見スルハ赤痢病流行ニ對スル防遏策トシテ最モ必要缺ク可カラサルハ言ヲ俟タス故ニ驅蠅ト同時ニ  
左ノ方法ニヨリ之カ發見ニ努メタリ

早期發見方法トシテハ流行地域ニ醫師防疫監吏ヲ派遣シ置キ一面檢病的戸口調査ヲ勵行シ其ノ結果尙モ身體ニ異常  
アリト認メタル場合ニ於テハ浣腸ヲ行ヒ便ノ性状ヲ調査シ粘液便又ハ粘液血便ヲ認メタルモノハ直ニ疑ハシキ患者  
トシテ隔離病舎ニ收容シ觀察セリ

早期發見患者表

發見月日	氏名	年	齡
八月二十八日	赤正		三
八月二十九日	佐竹		七
同	伊支		七
同	高ヒ子		二
同	桑隆		四
八月三十日	赤精		二

發見月日	氏名	年	齡
八月三十一日	高クエ		二
九月三日	赤秀郎		九
九月四日	赤明		九
同	佐富子		二
同	赤峯		一
九月五日	佐良		一
九月七日	高清		九
九月八日	黒マノ		六
同	赤兼		四
九月九日	高ツ子		四
九月十日	桑長郎		九
計		一八	

檢病調査日數二十日間ニシテ發見患者一八名ナリ

六、保菌者ノ檢索

保菌者ノ檢索ハ早期發見ト相俟テ本流行防遏ニ至大ノ關係アルヲ以テ左ノ方法ニヨリ之カ檢索ニ努メタリ  
豫メ隔離病舎ノ一室ヲ臨時細菌檢査所ニ充テ總テノ材料ヲ設備シ材料採取ノ方法トシテハ菌檢出率ノ確定ヲ期スル

タメ駒込式採便管ヲ用ヒ患家ニ於テ家族全部ノ糞便ヲ採取シ其場ニ於テ直ニ遠藤氏平板培養基ニ塗布シ検査ヲ行ヒタルニ其ノ結果三名ノ健康保菌者ヲ検出セリ

健康保菌者表

検査年月日	氏名	年	年齢	菌型
一四、九、四	佐 龜 〇	二二	志	賀 型
一四、九、五	伊 〇 〇	三六	同	
一四、九、九	盛 〇 〇	三四	同	

第三節 一般豫防施設並其ノ効果

大正十三年六月ヨリ同年九月ニ亘リ板野郡應神村吉成一六五戸人口一、〇三六人ノ地域ニ於テ赤痢流行シタリ

同地ハ人家著シク密集シ土地濕潤ニシテ部民職業ハ農村ナルモ日稼者多數ヲ占メ生活状態ハ細民階級ニ屬スルモノ多ク一般ノ衛生状態甚不良ナリ

一、患者發生ノ狀況

本流行ハ大正十三年六月二十一日ニ初發患者發生シ以來續發遂ニ總數八四名患家三〇戸ヲ算シ九月十七日ニ至リ終熄セリ

二、罹病率並死亡率

發生區域人口ニ對スル罹病率

〇・八二%

患者總數ニ對スル死亡率

二一・四三%

本流行地方ヲ視察スルニ人家柿比シ狹隘ナル地域ニ塵埃山積シ近隣相助ケ一朝事アル秋ニハ全部民衆テ會飲會食スル風習アリ之カ爲メ視察ノ當時ハ初發後短時日ナルニ拘ラス四三名ノ患者ヲ發生シ全區域ニ亘リ病毒ニ汚染セラレタルノ狀況ニアルヲ認メタルヲ以テ徹底的防遏策トシテ左ノ方法ヲ企テ之カ勵行ニ努メタリ

三、本流行防遏策トシテノ豫防施設

- (一) 井戸四八箇ニ對シ全部「クロール」石灰消毒ヲ持續的ニ施行シタルコト
- (二) 防蠅施設トシテ便所ニ蠅ノ出入ヲ防キ不潔ニシテ蠅ノ發生ノ惧アル場所ニハ石油乳劑ヲ撒布シ家屋内ニハ蠅取紙ヲ配付シ捕蠅ニ努メタルコト
- (三) 寢具等ハ日光消毒ヲナス
- (四) 家屋内ハ二千倍ノ昇汞水ヲ以テ持續的ニ擦拭ス
- (五) 便所ニハ上層ノ都度石灰末ヲ撒布セシメタリ
- (六) 塵埃ハ全部焼却セリ
- (七) 汚水溜下水ニハ生石灰ヲ以テ消毒シタリ
- (八) 上層ノ都度並食事ニ際シテ必ス手指ノ消毒ヲ勵行セシメタリ
- (九) 食物ニ蠅ノ蛆集スルコトヲ極力防キタリ
- (六) 患者ノ早期發見(檢病調査施行)

(二) 豫防接種ノ勵行

施設ニ要セシ藥品量

石炭酸 八〇磅  
 昇汞 四〇磅  
 石灰末 一五〇俵  
 昇汞錠 四〇壘  
 生石灰 四五罐  
 粉末石鹼 一〇磅  
 クロール石灰 二〇磅  
 蠅取紙 三、〇〇〇枚

四、豫防施設ト患者續發ノ狀況

施設前

發見年月日	發生患者數	發見年月日	發生患者數
一三、六、二一	四	一三、六、二七	六
一三、六、二二	一三	一三、六、二八	七
一三、六、二六	一〇	一三、六、二九	三
合計	二七	合計	一六

施設後

發見年月日	發生患者數	施設後發病迄ノ日數	
一三、六、三〇	三	三	
一三、七、一	一	一	
一三、七、二	二	二	
一三、七、三	二	三	
一三、七、四	二	四	
一三、七、五	二	五	
一三、七、六	二	六	
一三、七、七	二	七	
一三、七、八	二	八	
一三、七、九	三	九	
一三、七、一〇	一	一〇	
一三、七、一一	三	一一	
一三、七、一二	一	一二	
一三、七、一三	二	一三	
一三、七、一四	二	一四	
一三、七、一五	四	一五	
一三、七、一六	一	一六	
一三、七、一七	一	一七	
一三、七、一八	一	一八	
一三、七、一九	三	一九	
合計	三三	合計	三三

發見年月日	發生患者數	施設後發病迄ノ日數
一三、七、二一	二	一九
一三、七、二二	一	二〇
一三、七、二三	一	二一
一三、七、二四	一	二二
一三、七、二五	一	二三
一三、七、二六	一	二四
一三、八、一	一	三〇
一三、八、一三	一	四三
一三、八、一四	一	四四
一三、八、一六	一	四六
一三、八、三〇	一	五九
一三、九、一八	一	七八
合計	四一	

本流行ニ於テハ豫防施設前ニ於テ既ニ四三名ノ患者ヲ發生シ其ノ續發全ク停止スルヲ知ラサルノ狀況ニアルヲ以テ前  
述ノ如キ施設ヲナン徹底的病毒ノ撲滅ヲ計リシト雖其ノ以後尙且七十八日間持續發生シ四一名ノ患者ヲ出スニ至レリ

以上ノ成績ニ就キ考察スルニ

- 一、赤痢病流行ハ蠅ノ繁殖旺盛ニシテ其ノ活動最モ盛ナル時期ニ於テ患者ノ發生増加スルモノノ如シ
- 二、板野郡松坂村那東ニ於ケル赤痢病流行ハ驅蠅施設ニヨル蠅ノ減少ト輕症患者並保菌者ノ發見ニヨリ比較的短時日ニ防遏シ得タリ
- 三、板野郡應神村吉成ニ於ケル流行ハ蠅ノ驅除其ノ他一般施設ヲ施行セシモ容易ニ其ノ發生ヲ防止シ能ハサリシ
- 四、蠅ノ徹底の驅除ト共ニ患者ノ早期發見並保菌者ノ檢索ヲ嚴重ニ勵行シ殊ニ輕症患者ノ檢索ヲ行ヒ患者ハ勿論汚染ノ疑アル者ニ對スル隔離方法ノ勵行(入院入舎)等ニヨリ専ラ觸接傳染ノ機會ヲ少ナカラシメ以テ病毒ノ散逸ヲ防カサレハ其ノ防遏容易ナラサルモノノ如シ

### 第二章 患家消毒後ニ於ケル患者續發狀況

赤痢患者發生ニ當リ患者ヲ隔離シ嚴密ナル消毒ヲ施行セルニモ拘ラス尙屢々同一家族中ヨリ患者續發ヲ見ルコトアリ  
之カ原因ハ消毒方法不完全ニシテ病毒殘存セルタメナルヤ將又消毒前ニ於ケル感染ナルヤ左記二七例ニ就テ嚴密ナル  
消毒ト共ニ保菌者ノ檢索ヲ行ヒ苟且ニモ病毒ノ遺殘ナキヲ期シ一面消毒後ニ於ケル家族ノ動靜ヲ調査シ他ヨリノ病毒  
感染ノ機會ニ注意シタルニ其ノ結果左ノ如シ

#### 患家消毒後ノ續發關係

第一患者氏名	發病月日	患者隔離月日	第二患者氏名	發病月日	第一患者ト 續發者ト 消毒後第二患者 發病迄ノ日數
賀〇カ〇	八、一三	八、一四	賀〇早〇	八、二二	父 九

第一患者氏名	發病月日	患者隔離月日	第二患者氏名	發病月日	第一患者ノ續柄	消毒後第二患者發病迄ノ日數
黒○政○	八、一三	八、一五	黒○フ○	八、二四	妹	一〇
黒○フ○	八、二四	八、二六	黒○マ○	九、四	妹	一一
近○後○	八、一五	八、一八	近○ト○	八、二六	母	九
豊○仲○	八、一四	八、一五	豊○光○	八、二一	兄	七
高○キ○	八、一九	八、一九	高○ヒ○	八、二九	二女	一〇
高○ヒ○	八、二九	八、二九	高○ツ○	九、九	姉	一二
赤○イ○	八、二七	八、二八	赤○秀○	九、一	孫	五
川○初○	七、七	七、八	川○サ○	七、一六		九
川○タ○	六、二五	六、二六	川○大○	六、二八	弟	三
川○大○	六、二八	六、二九	川○ミ○	六、三〇	母	三
矢○仙○	六、二九	七、二	矢○守○	七、三	兄	一
矢○守○	七、三	七、四	矢○正○	七、六	弟	三
中○敏○	六、二三	六、二三	中○チ○	六、三〇	母	八
福○マ○	六、二三	六、二三	福○ツ○	六、二五	祖母	三
佐○シ○	六、二五	六、二五	佐○萬○	六、二八	夫	四

佐○萬○	六、二八	六、二八	佐○タ○	六、二九	婦	二
阿○良○	七、一八	七、一九	阿○ト○	七、二四	母	六
濱○峯○	七、二九	七、三〇	濱○信○	八、二七	弟	二九
濱○信○	八、二七	八、二八	濱○フ○	九、六	姉	一〇
落○ウ○	八、一五	八、一六	落○イ○	八、二〇	祖母	五
小○正○	八、二八	八、三〇	小○ア○	九、三	姉	五
中○春○	九、五	九、七	中○彌○	九、一一	父	五
佐○ツ○	六、二三	六、二四	佐○竹○	六、二六	孫	三
米○	七、三	七、五	米○マ○	七、一九	母	一五
内○六○	七、七	七、八	内○イ○	七、一一	二男	四
井○ミ○	六、一五	六、一六	井○秀○	六、一八	從弟	八
井○秀○	六、一八	六、一九	井○エ○	六、二二		四

以上ノ成績ヲ觀ルニ消毒後ノ發病期間最モ短キハ矢○仙○ニシテ消毒ノ翌日ニ於テ發病セリ之ニ反シ其ノ最モ長キハ濱○峯○ノ消毒後二九日ノ發病ナリ之カ發病ニ至リタル經過ヲ調査スルニ同人ハ職業上罹病數日前赤痢患家同村佐○徳○方ニ出入シ飲食ヲ共ニセシ事實アルヲ以テ之ニ因リ感染シタルモノナラムカト思考ス米○マ○ハ消毒後一五日ニシテ發病セルモ同人ハ患者ノ看護中ニ罹患セルヲ以テ感染ノ日時判明セス從テ消毒トハ何等關係ナキモノト思考ス

潜伏期トノ關係

本病ニ於ケル潜伏期ノ最長ハ文献ニ徴スレハ八日間トスルモ九日以上一二日迄ニ發病セルモノハ例アリ之等ハ恐ラク  
 數日間輕症ニ經過シ赤痢トシテ自他共ニ認知スルヲ得ス赤痢症狀顯著ナルニ至リ發見セルモノト思考ス故ニ消毒後且  
 病原體保有者ノ檢索ヲ行ヒ陰性ニ終レリトハ云ヘ一定期間ハ豫防上相當警戒ヲ要スルモノナラム

### 第一三章 飲料水ト赤痢ノ關係竝ニ「クロール」 石灰消毒ノ赤痢ニ對スル疫學的考察

飲料水ノ淨化ハ保健衛生上ヨリ又防疫上ヨリ觀ルモ極メテ重要ナルコトハ言フ俟タサル所ナリ然ルニ都市ニ於テハ上  
 水道ノ布設漸次普及セラルルモ赤痢流行ト密接ナル關係ヲ有スル農村ニ於テハ上水道ノ布設セラルルモノ極メテ少ク  
 從ツテ農村ニ於ケル飲料水ノ改善淨化ノ急ヲ要スルハ常ニ痛感スル所ナリ本縣ハ夙ニ共同井戸設置ニ對スル補助規定  
 ヲ制定シ獎勵セルモ經費少額ノ爲豫期ノ效果ヲ收ムルコトヲ得ス余ハ赤痢豫防策ヲ攻究スルニ當リ飲料水ト赤痢ノ關  
 係ヲ探究シ一般ノ飲料水ニ對スル注意ヲヨリ一層喚起セムトス

#### 第一節 上水道布設ト赤痢患者發生ノ消長

各府縣ニ於ケル上水道布設ト赤痢患者發生消長ノ關係ヲ調査スルニ其成績左ノ如シ

調査場所	種別	年次													
		昭和10	11	12	13	14	15	16	17	18	19				
小	水道	完成前	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		完成後	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

町父秩	市宮都宇			市戸水			市臺仙			市森青			市椹		
	年次	人口一萬ニ對スル患者ニ對スル%	死者ニ對スル%	年次	人口一萬ニ對スル患者ニ對スル%	死者ニ對スル%	年次	人口一萬ニ對スル患者ニ對スル%	死者ニ對スル%	年次	人口一萬ニ對スル患者ニ對スル%	死者ニ對スル%	年次	人口一萬ニ對スル患者ニ對スル%	死者ニ對スル%
秩父	大正八	—	—	大正元	—	—	大正六	—	—	昭和七	—	—	昭和八	—	—
父	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
秩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
宮	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
都	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
宇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
水	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
戸	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
水	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
臺	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
仙	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
森	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
青	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
椹	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—